

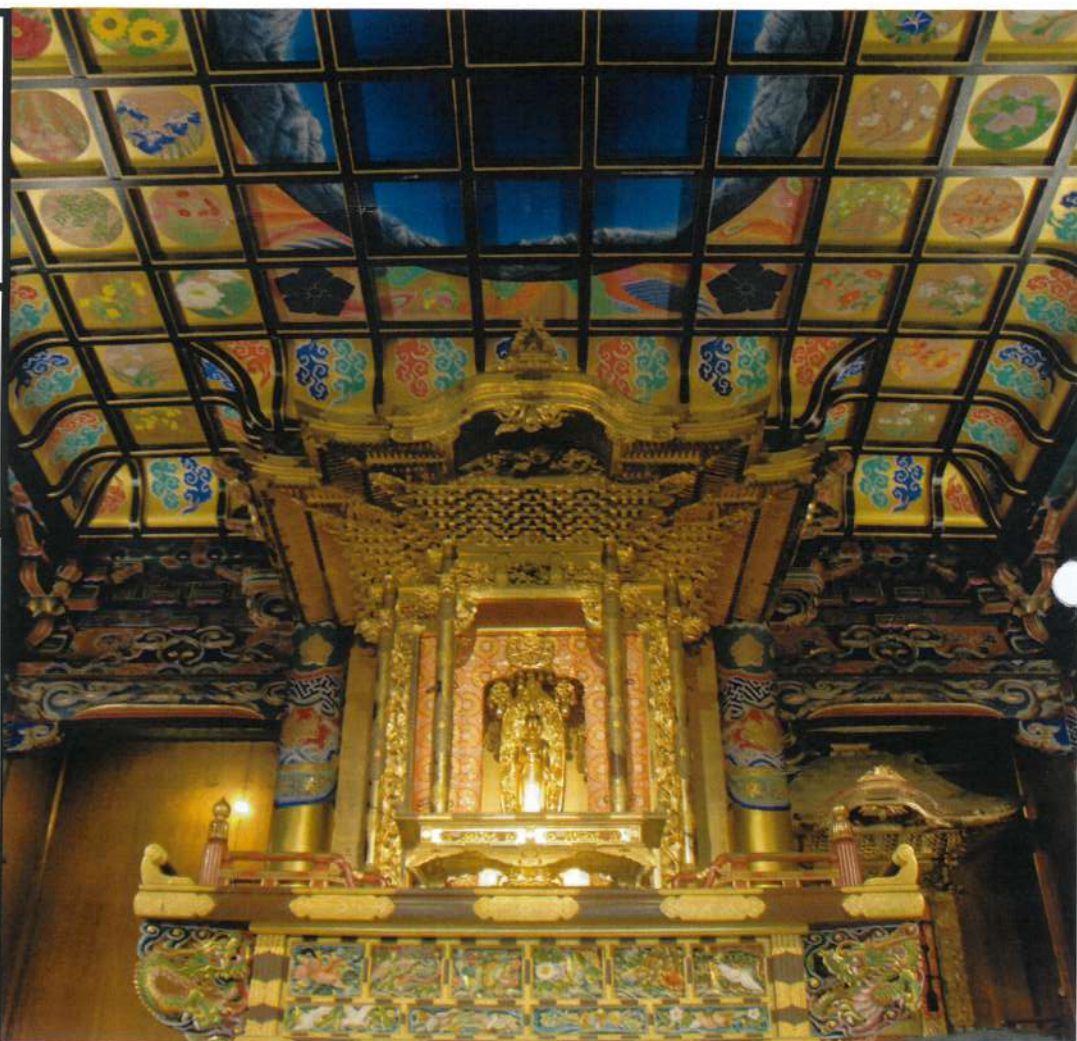
# 寺 報 善 巧

ぜん ぎょう

発行

〒 938-0862 富 山 県  
黒部市宇奈月町浦山497  
白 雪 山 善 巧 寺  
TEL (0765) 65-0055  
FAX (0765) 65-0975  
URL <http://www.zengyou.net>

みんなのお寺  
わたしのお寺



阿弥陀さまがお歸りになりました。

四月からスタートした  
本堂修復工事が予定通り  
に一段落しました。

今回の工事は、親鸞聖  
人七五〇回大遠忌の記念  
事業として行われまし  
た。五十年に一度の節目  
です。平成二十年より計  
画を進め、実行委員会  
の方々と業者の選定、視  
察に行ってからもう五  
年が経ちました。

酒井匠工務店に決  
定してからは、本堂  
全体を細部まで点検  
してもらい、緊急を  
要する箇所から優先  
して工事内容を決定  
していきました。ご  
門徒のご負担を最小  
限に留めつつ、後世に恥  
じない内容にするため  
にはどうしたらよいのか、  
何度も何度も話し合われ  
ました。その吟味した計  
画案を説明会や寺報でお  
知らせし今回の事業にた  
どり着いたことです。

募財のお願いは平成二  
十一年より始まり、三年

## 記念事業

ではほ目処が立ち、今尚  
ご協力を頂いておりま  
す。一番の心配とされて  
いた募財も多くのご協力  
を頂き、予想以上の額と  
なりました。当初、お蔵  
の修復案は募財の集まり  
次第では中止するべきと  
いう案もありましたが、  
おかげさまで計画された  
工事内容は滞りなく行  
われ、天井画と並びお  
蔵も見所の一つとなり  
ました。

ご門徒の身を削りな  
がらのご協力は善巧寺  
の誇りです。このご時  
世予定額を上回ること  
は大変なことで、皆様  
のお寺を護っていくお  
心はとても尊く声を大に  
して自慢したい気持ちで  
す。

この度の記念事業は、  
来年の十月十二日・十三  
日に行われる大法要が集  
大成となります。ぜひ修  
復された本堂で、ご一緒  
に手を合わせましょう。

善巧寺住職 雪山俊隆

# 修復工事、無事終える

おかげさまで修復工事が無事終了しました。今回の工事は急を要する箇所を優先的にを行い、そのまま残す所は最大限に活かしています。気になる

箇所もあるかもしれませんが、百三十一年の年月を感じられる仕上がりです。皆さんの目で確認していただくことをお待ちしております。



数年前にシロアリ被害のあった本堂入口の階段を新調しました。



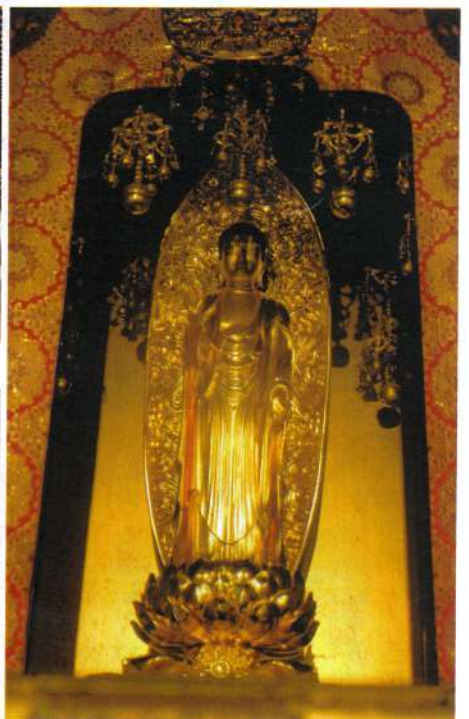
老朽化の目立つ山側の縁側を優先して新調しました。



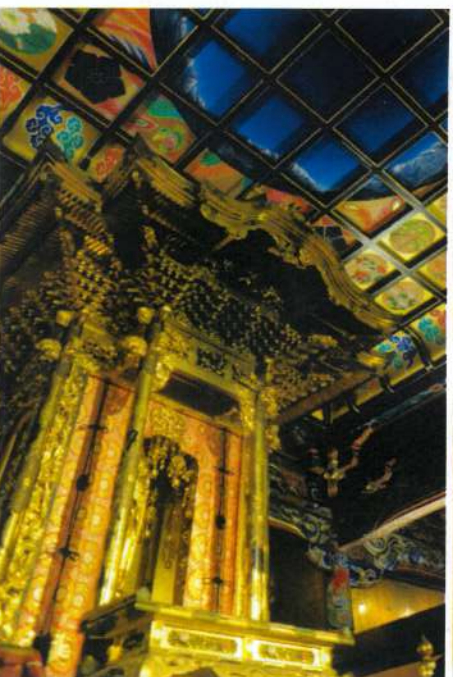
輪灯修復。ピカピカです。



白壁が塗り替えられました。



阿弥陀さまがお身拭いされました。



締め直しされたお宮殿



山側に風除設備が取り付けられました。



物置きと化していたお蔵を再生。1Fは11代僧銘の書、2Fは善巧寺歴代住職の遺物を安置。



※記念要は来年（平成二十五年）十月十二・十三日です。



朝日新聞



中日新聞



北日本新聞

## news

# パノラマで立山連峰

富山県黒部市・善巧寺(雪山俊隆住職)に、雄大な立山連峰を360度のパノラマで描いた内陣の天井画がこのほど完成し、壮麗な天井画に注目が集まっている。

3000m級の雄山や断崖をはじめ、鷲岳、白馬岳など、白雪が覆う立山連峰が円形に描かれ、中央には青い世界が広がる。周囲の格天井には、共命鳥と鳳凰、チューリップや高山植物の白根菜など富山に咲く色鮮やかな花々が飾られている(写真)。

同寺の親鸞聖人750回大遠忌記念事業の一環で、雪山住職が親交のある地元富山の日本画家・清河恵美さん(1面写真右側)に依頼。1年半かけて内陣と余間の絵248枚が出来上がった。武蔵野美術大学日本画科を卒業後、富山をテーマに山や青空、花などをモチーフに独特の宇宙観を日本画で描く清河さんは「立山連峰が浮かびイメージが湧いた。お寺は100年経っても皆さんに見てもらえる場所。末永く護持されてほしい」と話す。雪山住職は「素晴らしい立山のデザインと、富山の花たちの花びら1枚1枚が生き生きとして感動した。後世に残せる事業となった」と喜ぶ。

同寺は10月20日から27日までの午後1時から6時まで天井画を一般公開する。

問い合わせは善巧寺 ☎0785 (65) 0055。

本願寺新報

| 寺<br>ごよみ |                | 寺<br>ごよみ |          | 寺<br>ごよみ |         |
|----------|----------------|----------|----------|----------|---------|
| 一〇月      | 一日             | 二二日      | 上野報恩講    | 一六日      | 浦山新お講   |
| 二日       | 板屋お講           | 二五日      | 上野報恩講    | 一七日      | お寺座ライブ  |
| 三日       | 栗虫報恩講          | 二九日      | 板屋報恩講    | 一九日      | 中陣報恩講   |
| 四日       | 栗虫報恩講          | 三〇日      | 板屋報恩講    | 二〇日      | 中陣報恩講   |
| 五日       | 栗虫報恩講          | 三一日      | 飯野・芦崎報恩講 | 二一日      | 出・滑川報恩講 |
| 六日       | 清掃奉仕           | 十一月      |          | 二六日      | 浦山新報恩講  |
| 七日       | 東狐報恩講          | 一日       | 愛本新お講    | 二七日      | 浦山新報恩講  |
| 八日       | 魚津報恩講          | 二日       | 石田・中新報恩講 | 二八日      | 浦山新報恩講  |
| 九日       | 富山報恩講          | 三日       | 空華忌      | 二九日      | 浦山新報恩講  |
| 一〇日      | 経田報恩講          | 四日       | 空華忌      |          |         |
| 一一日      | 東狐報恩講          | 五日       | 空華忌      |          |         |
| 一二日      | 法要準備           | 六日       | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 一三日      | 永代祠堂会          | 七日       | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 一四日      | 三日市お講          | 八日       | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 一五日      | 永代祠堂会          | 九日       | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 一六日      | 永代祠堂会          | 一〇日      | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 一七日      | 永代祠堂会          | 一一日      | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 一八日      | 報恩講            | 一二日      | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 一九日      | 報恩講            | 一三日      | 石田・中新報恩講 |          |         |
| 二〇日      | 天井画一般公開(二七日まで) | 一四日      | 石田・中新報恩講 |          |         |
|          |                | 一五日      | 石田・中新報恩講 |          |         |

## 永代祠堂会・報恩講

十六日午前10時 遷仏法要・お講

午後一時半 仏婦物故者追悼法要

十七日午前10時 戦没者・総代・寺族追悼法要

午後一時半 内陣法名法要

十八日午前10時 報恩講

午前一時半 前住職、前々住職回忌法要

十九日午前10時 報恩講

午後一時半 報恩講御満座

講師 日置 宗明 師

(三重・信明寺住職)

十七日と十九日は送迎バスが運行されます。  
恒例の仏婦バザーとクイズがあります。

## 空華忌

十一月四日午後一時半

五日午前10時

午後一時半

講師

若林 真人 師

(大阪・光照寺住職)

修復されたお蔵を公開致します。



## 善巧寺天井画 一般公開

■期間: 10月20日(土)～27日(土)

■時間: 午後1時～6時

一般公開期間を設けます。ぜひ皆さんの天井画を友人知人に紹介してあげてください。



法要準備

十月十五日八時半

もちつき

十二月三十日  
午前八時半

除夜の鐘

一月一日〇時

年頭参り

一月一～二日  
午前八時～午後三時

## 合 掌

阿弥陀様が百三十一年ぶりにきらきら輝いてお戻りになりました。豊もまつさらになりました。この先百年二百年と続いていく本堂を大切にに使わせていただきますように。

※ ※ ※

お盆のお墓参りをされた方からこんな話を伺いました。その方の実家はお寺の近くで、おじいちゃん毎日お寺に寝泊まりしお内仏で朝夕のお勤めをして住職(十九世俊夫・はかせのごえはん)不在のお寺を護ってくださいました。食事時間だけ我が家に帰られたとか。その先々代は本堂の再建をされた第十七世住職とも交流があったと思われる明治時代から代々お寺を護ってくださいったのです。